

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070500539		
法人名	医療法人栗山会		
事業所名	グループホーム わたぼうし		
所在地	飯田市羽場権現1618番地		
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体病院、併設老健と連携・協力の下で運営しているため、医療面(受診・内服処方の便宜、状態変化時の対応等)がスムーズに行えるという利便性を備えている。また変化し易い高齢者の状態に合わせた介護サービスの導入など、併設老健も含めて幅広い視点で必要なサービスを捉え、ケアの提供を心掛けている。当事業所内においては、ご利用者の生活リズムを基盤にしながら、ご本人・ご家族の意向を尊重したケアを行えるよう努めている。

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsvakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070500539&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

昨年に引き続き2回目の外部評価を行い、訪問調査での約3時間の利用者・職員との触れ合い、同じく約3時間の管理者・職員との対話を通してこのグループホームの理解が深まり、いろいろ優れている点の中から、さらに優れている次のような点を見つけることができた。
それは、利用者の皆さんの優しさ・温かさである。職員が仕事として当たり前に行っているトイレなどの付き添いにも「ありがとう」と、利用者からすぐ言葉が返ってくる。物を渡してもらったり、場所を移動してもらったりするような些細なことでも同様である。利用者同士の間でも、食事の前に利用者の一人が他の利用者の前のテーブルを拭くと、された方は「ご苦労さま」と言えば、した方は「はいよ」と返ってくる。このような人間関係は管理者や職員の「労いの言葉、感謝の言葉」の実践から生まれてきたのである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	飯田市上郷別府3307番地5
訪問調査日	平成23年2月15日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々を訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを考慮した理念を掲げている。意識作りや、実践に努めている。	理念をパンフレットや重要事項説明書に記載して利用者や家族等に知らせたり、職員会議や実習生などが来た折にも説明したりして、共通理解を図り、実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	理念の掲示をし、共有につなげているが、地域住民としての活動は少ない。併設老健を介して防災訓練への参加、地域のボランティアの方が掃除などをしてきている。	併設介護老人保健施設「アップルハイツ飯田」との交流(誕生会、お祭り、花火大会などの行事)や、この施設を介しての地域との交流(保育園児や中学生との触れ合いなど)を進めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	短大生の2週間の実習、開設のGHの実習などに積み上げてきた認知症への理解・接し方など支援した。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	経過報告と同時にメンバーからの意見をいただき、交流を深めている。また、会議内容を職員会議内で報告し、活かしている。運営推進会議を2か月に1回、定期的開催している。	前年度の反省から、運営推進会議を2か月に1回定期的に開催し、見学会や事業報告をして話し合い、いろいろな意見を聞いて、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に併設老健が連絡を取っており、当事業所は、認定調査時や書類提出時等の対応をしている。市との連絡会には積極的に参加している。	併設介護老人保健施設を通して市の担当者との連絡を取っている。また、市との連絡会やグループホーム連絡会などに参加し、情報交換して連携を取っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設老健と共に身体拘束をしない研修会への参加をしている。約款にも記載。外に出たがる時は同行している。	併設介護老人保健施設の職員とともに研修会に参加し、他の職員にも伝え共通理解を深めている。転倒防止のためにベルト使用をせざるを得ないときには、家族の了解を得て行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設老健内の研修に参加、またわたぼうし内の会議の中でも虐待について話合った。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに説明してきたが、今回この制度を活用された方がおり、より身近なこととして、理解出来たと思う。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	併設老健相談員から説明を行うと共に、面接時に当事業所職員から改めて説明を行っている。ご家族の質問、不安点なども話し合っており同意をいただくようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回発行するご家族宛のお便りにもその旨を記載し、面会時にも意向などをなるべくお聞きし、改善点があれば検討している。	利用者に対して職員の担当を決め、普段の生活の中から利用者の声や面会時には家族の意向などを聞くようにして、きめ細かく対応できるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との直接的な接触は難しいが、併設老健との会議等を介し要望を伝え、月1回の会議や個人面談時、日常の中で聞き出すようにしている。	職員の意見や提案は、グループホームの職員会議を通して、併設介護老人保健施設との管理者が出席する運営会議に伝えられるようになっている。管理者は普段から職員が相談しやすいように、配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設老健の管理者が月1回の会議や年間自己管理目標の面談を介し、現場を把握できるようにしてくれる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設老健管理者を介し、研修への参加の推奨、個人目標を評価しながら自己研鑽への指導を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワーク会などに参加し、勉強会や意見交換を通して良い面など取り入れ、ミーティングの中でも伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に聞き取りをじっくり行くと同時に、特に入居間もない時は生活様子の観察を注意深く行い、見守っている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から困っていることや望んでいることを聞き、少しでも早く安心していただけるように行っている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時、ご家族の意向・本人の思いや状況をお聞きし、必要なサービスは何かを考えたケアが出来るようにしている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も「一緒に暮らす」という意識を持ち、支え合う関係づくりに努めている。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちや労いの言葉などが理解できるように努め、面会時や毎月一回のお便り等にも反映できるようにしている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者全員にはできていないが、地域に暮らす知人などの行き来が継続できるように支援している。	付近に暮らす利用者の友人が野菜や果物を差し入れに来て、皆とおしゃべりしてくれることを歓迎している。また、お正月やお盆に里帰りするように促し、地域とのつながりが途切れないように支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、時に職員が仲介、時に見守りをして関わり合えるよう支援している。心身の変動もあるのでその面も注意を払った対応に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで相談や支援の経緯はないが、要請あれば応じる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人一人の様子に配慮、カンファレンスを中心にニーズの把握、情報交換や確認に努めている。ご家族からも情報収集を行っている。	センター方式のアセスメントシートを活用している。利用者の興味・関心を示したことを記録し確認して、職員皆が様々な場面で話題にできるように心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報をベースにし、日常生活の中でもさらに情報把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、性格や行動を感じとり、職員間で共有もし、全体像の把握をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを反映させながら計画作成し、モニタリング、カンファレンスを定期的に行うと同時に適宜にショートカンファレンスも行っている。	担当者職員を中心に介護計画を作成し、利用者一人ひとりの記録をきめ細かにとっている。転倒した場合の対応など、適宜にその日の勤務者の間でショートカンファレンスを開き、その時に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態、言葉、エピソード等個人カルテに記載し、共有すると同時に計画や評価に繋げている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮して行っている反面、体制が整わずニーズに応えられないこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への地域関係者の出席はあるが、そこから発展せずこもりがちな生活になっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の病院、かかりつけ医の受診を継続している。家族が同行できない場合には職員が付き添っている。	利用者が個人的に希望するかかりつけ医の他に、母体の総合病院「飯田病院」で緊急の場合すぐ受診できるように連携している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の様子観察から早期発見に取り組み、何かあれば併設老健の看護師に報告し、適切な対応に繋げている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院入院時には入院中の状態の問い合わせ、面会など行い、入院による体力低下を極力防ぐ為に病状が安定し治療が済めば、早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限りの対応をしながら、その見極めを早めに行い、ご家族とも早い段階から面談を行っている	利用者の家族と話し合っ、重度化してきた場合も母体の総合病院「飯田病院」や併設介護老人保健施設「アップルハイツ飯田」と連携して、安心して適切な対応ができるように支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設老健での応急手当の勉強会への参加。夜勤時、休日の緊急時対応マニュアルを作成し、徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設老健との合同避難訓練を年2回行っている。また、設備点検を定期的に行い、消火器の使い方などの訓練も行っている。運営推進会議でも話し合っている。	併設介護老人保健施設と合同で年2回避難訓練を行っている。また、独自に夜間を想定した救出訓練を行っている。使いやすい小型消火器を設置してきたが、まだスプリンクラーは設置していない。	1ユニットのグループホームとしては295㎡と広い施設であるので、早急にスプリンクラー設置の検討、実現が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ち、配慮を忘れないことを徹底し、その対応に心掛けている。	職員が利用者一人ひとりの人格や特長をつかみ、優しく言葉かけているので、利用者から職員への労いの言葉や感謝の言葉が自然と出てきている。また、利用者同士も温かな関係を築くように支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせた説明や言葉選びをし、ご本人が答え易いように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決めているが、無理強いせず、その時の気持ちを尊重している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、なじみの美容院への同行も対応している。一人一人の好みやおしゃれのポイントを、職員もそれぞれ把握してお手伝いしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食事作りは職員が中心となっているが、利用者とともにすることも多い。また同じ食卓を囲み、楽しい会食に心掛けている。	利用者がそれぞれできる食事の準備(下ごしらえ、台拭き、お茶くみ、盛りつけ)や後片付けを進んで行っていた。そして、利用者はされる方は「ご苦労様」と声かけ、する方は「はいよ」と自然に言葉を返していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分、食事摂取量の把握をしている。希望に応じた嗜好品も取り入れている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立、見守り、声掛け、介助など個人の状態を把握し、職員が口腔ケアに関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心掛けると同時に、自分で排泄が出来たと思えるような最小限のフォローを心掛けている。生活パターン、仕草、癖の把握にも努めている。	職員は利用者一人ひとりの状態から、時間を見てトイレ誘導を行ったり、自分でトイレに向かった利用者にはさりげなくついていったりして、自立できるように見守っていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を残し、便秘時には乳製品、果物の摂取を働きかけながら、内服対応している。全体に運動不足の傾向も感じている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間帯は決まっているが曜日は決めずに、体調や気持ちを尊重した対応に努めている。湯温、浸かる時間の好みを把握し対応している。	利用者の希望などを聞いて、日にちや後・先の時間などがかなえられるようにして、入浴を楽しめるように支援している。また、併設介護老人保健施設では機械浴ができるようになっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況に合わせてゆっくり休息がとれるよう支援している。睡眠状況も把握し、日中の活動時間についての検討をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が一覧できるファイルを作成し、いつでも確認出来るようにしている。副作用や禁止食品を掲示、申し送り徹底し、職員会議でも再度確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態に合わせた役割作りやお手伝いを頼みながら職員も一緒に行い、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に対する外出支援の機会は少ないが、買い物や外食の計画を立て、個別に対応している。また、ご家族の協力のもと外出支援をしている。	行事に合わせて外出や外食したり、家族との外出支援など工夫している。しかし、アンケートにもあり、自己評価にも述べられているように、利用者の希望にそった外出支援が少ない。	周りの環境は日常的な外出支援には適しているとは言えないが、利用者一人ひとりの実情を踏まえた解決策が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理でお小遣いを預かっており、必要な場合には自分で払ったり、手渡すなどして支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりを日常的に行っている。また、希望時には手紙の代筆を行っている。電話対応の支援も行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物を取り入れた飾り付けの工夫、装飾品作りの工夫を利用者と一緒に行っている。行事写真の掲示も行っている。	玄関は狭いが、食堂、居間が明るく広くとってあり、利用者がゆったりと団らんがとれるようになっている。そこで、一緒に話をしたり、体操をしたり楽しく過ごすことができた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関から食堂、談話室が一体的で開放感がある反面、プライバシーの配慮の工夫も検討しなければならないと思っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に入居説明時に居室作りについてお願いしている。また日常の中でご本人が気に入った物を居室に飾る工夫をしている。	各居室は簡素であるが、利用者の好みの写真やポスターが貼られたり、使い慣れた家具や品物が置かれたりして、居心地よく過ごせるようになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態を把握し、手すりの設置や目印、家具の配慮を心掛けている。		